

2021年2月26日  
電源開発株式会社

## 大間原子力発電所での MOX 燃料利用計画について

当社は、現在、大間原子力発電所について、原子力規制委員会による新規制基準への適合性審査を受けております（2027年後半安全強化対策工事終了見込み）。大間原子力発電所の MOX 燃料に必要なプルトニウムは、国内の電力会社が国内外の再処理工場で回収し所有するプルトニウムから譲渡されることとなっており、今般、電気事業連合会の「プルトニウム利用計画」公表に合わせて、大間原子力発電所での MOX 燃料利用計画を下記の通りお知らせします。

### 記

大間原子力発電所では、MOX 燃料を計画的かつ段階的に利用していくことを基本的な考え方としております（2010年3月15日付「大間原子力発電所での MOX 燃料利用計画について」）。

日本原燃株式会社の六ヶ所 MOX 燃料加工工場の操業開始以降は、原則として、六ヶ所再処理工場で回収されるプルトニウムを譲り受け、MOX 燃料に加工する計画です。

（なお、運転開始当初は、海外の再処理工場で回収されるプルトニウムを譲り受け、海外の MOX 燃料加工工場で加工する計画です。）

全炉心に MOX 燃料を装荷する段階（取替燃料として、毎回、炉心の 1/3 程度の MOX 燃料を装荷）において、1 年間に利用するプルトニウム量（装荷する MOX 燃料に含まれるプルトニウム量を 1 年あたりに換算した年間利用目安量）は約 1.7 トン（※）となる見通しです。

※ これまでは核分裂性プルトニウムの量（約 1.1 トン）としていたが、「我が国におけるプルトニウム利用の基本的な考え方（2018年7月31日：原子力委員会決定）」の決定以降、全プルトニウム量で記載されていることを踏まえ、全プルトニウム量（約 1.7 トン）とした。

以 上